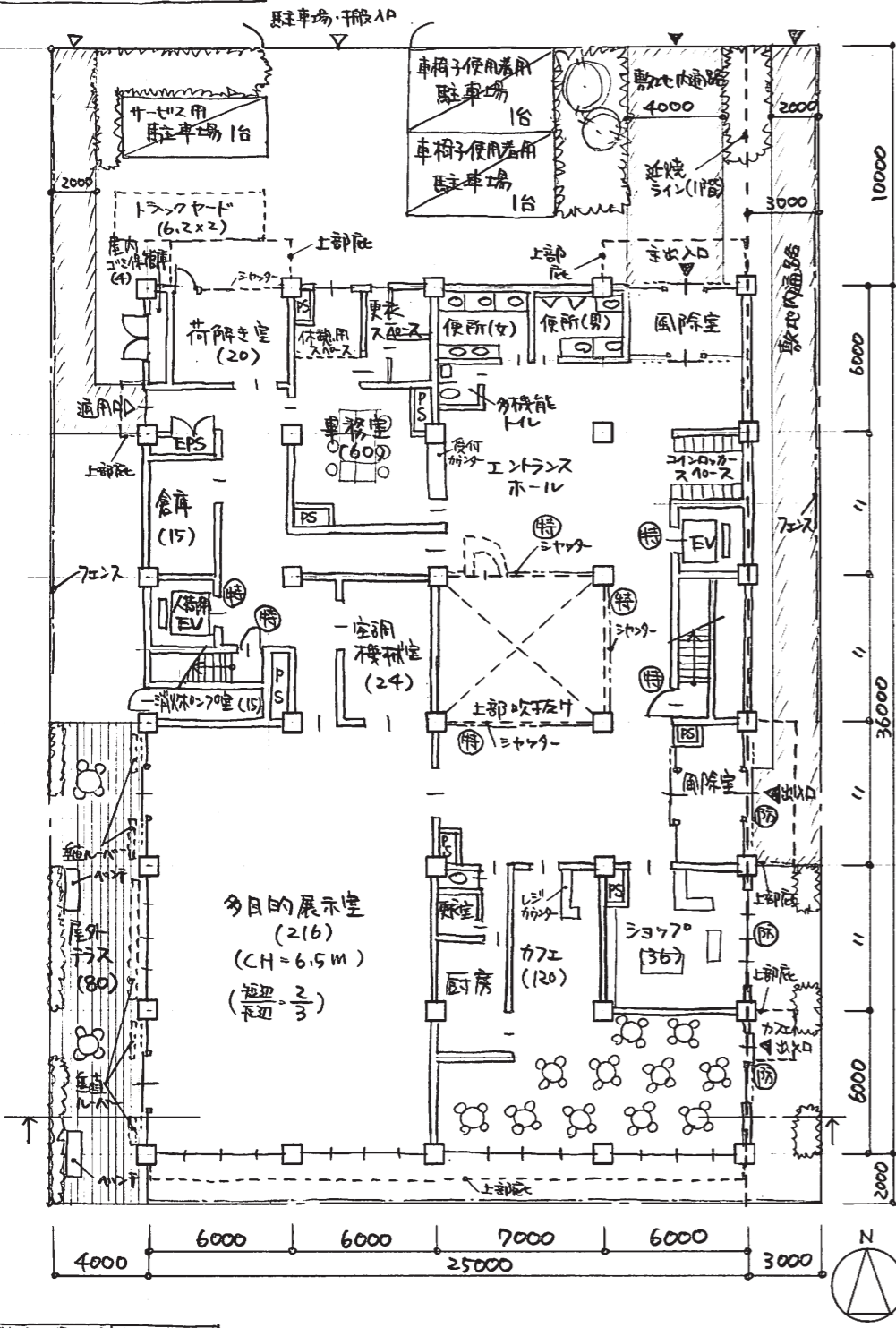
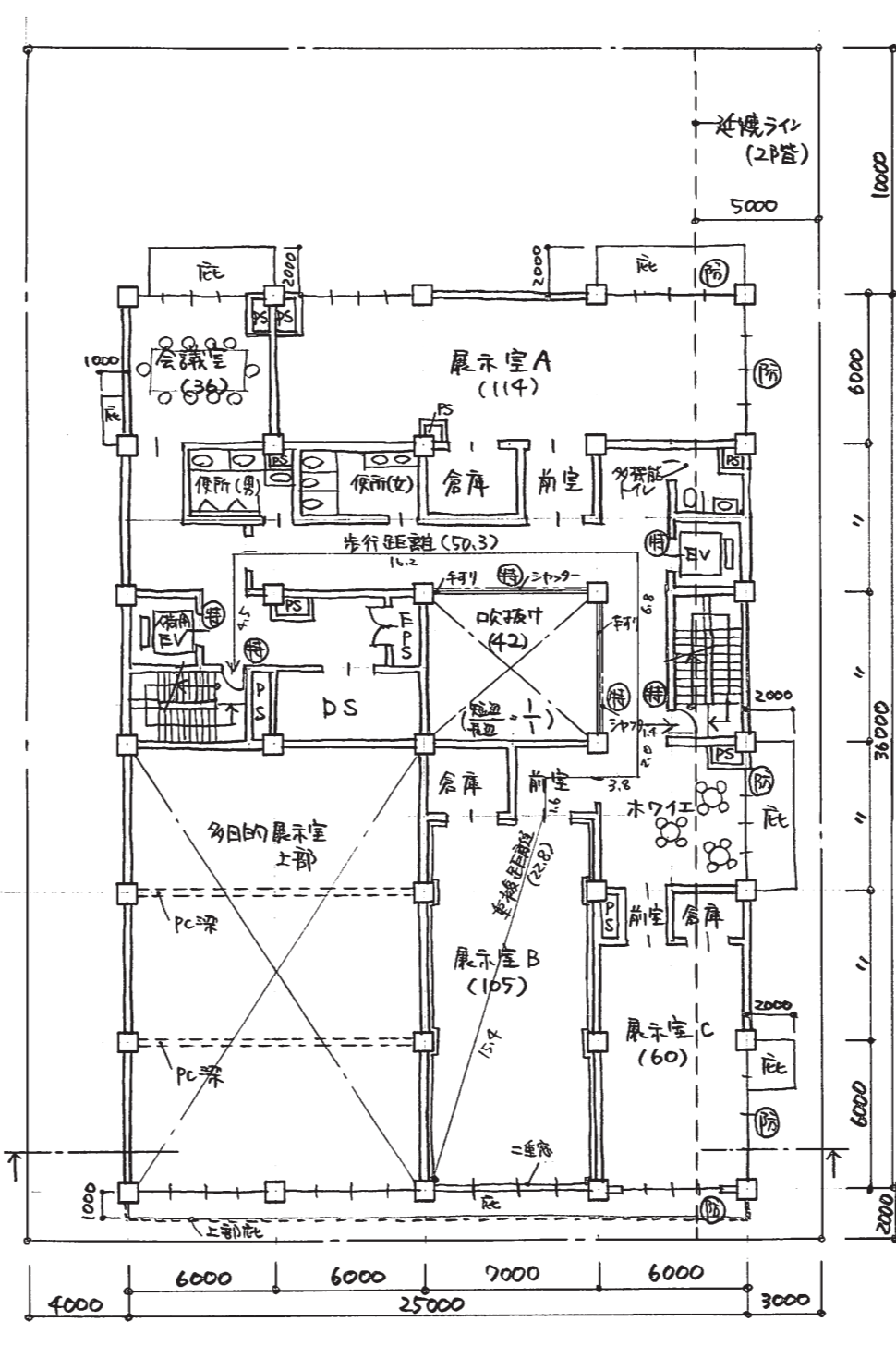


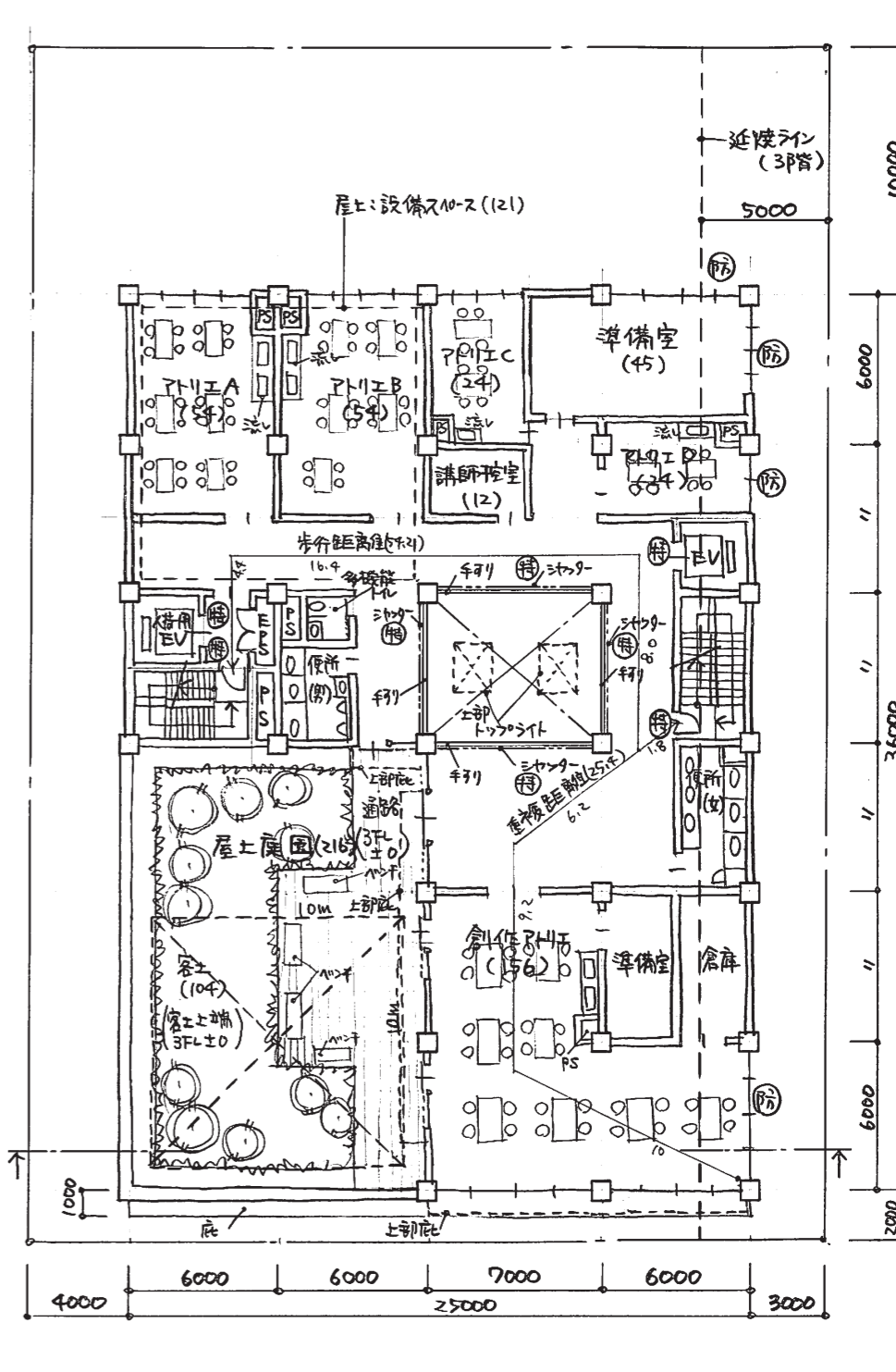
1階平面図 縮尺 1/200



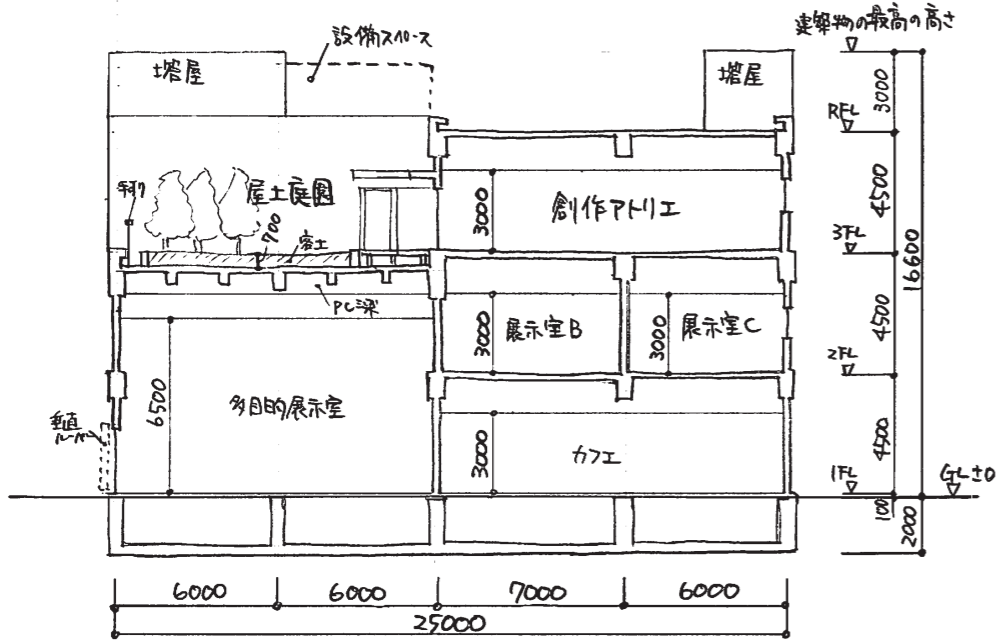
2階平面図 縮尺 1/200



3階平面図 縮尺 1/200



断面図 縮尺 1/200



面積表 (算定式は算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		
建築面積	(算定式) $(25 \times 36) + (6 \times 1) + (2 \times 1) + (6 \times 1) = 914.0$	914.0 m ²
床面積	3階 (算定式) $(25 \times 36) - (12 \times 18) - (7 \times 6) = 642.0$	合計 2184.0 m ²
	2階 (算定式) $(25 \times 36) - (12 \times 18) - (7 \times 6) = 642.0$	
	1階 (算定式) $25 \times 36 = 900.0$	

容積率 (算定式は算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り上げる。)	
(算定式)	$\frac{2184.0}{1536.0} \times 100 = 142.19 \%$

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない計画についても記述する。

(1) 「展示関連諸室」と「アトリエ関連諸室」のゾーニングについて考慮したこと

展示関連諸室は、静かで落ち着いた空間として、アトリエ関連諸室の創作活動の空間とは、階を分けて配置する計画とした。また、講演会等で多くの利用者が集まる多目的展示室は、利用動性が短くなるよう、1階に配置する計画とした。

(2) 展示物等の移動に配慮した、荷解き室の搬入口から各展示室までの動線について考慮したこと

荷解き室の搬入口は、搬出入のしやすさを考慮し、トラックヤードに面する計画とした。また、各展示室への搬出入経路となる廊下は、有効幅2.5m以上を確保し、人荷用エレベーターにより展示物の上下階の移動にも配慮した計画とした。

(3) 分館と本館との来館者の動線について考慮したこと

分館と本館の利用者が自由に行き来しやすいようアプローチに配慮し、道路側(北面)にメインエントランス、本館側(東面)にサブエントランスを設け、利用者の動線に配慮した計画とした。

(4) 展示室A及びBについて、特記事項を踏まえたそれぞれの「室の設え」について考慮したこと

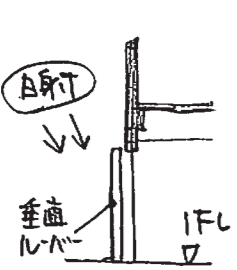
展示室A	展示室の開口部は、採光を調整できるようにブラインドを設置し、天井面には、配線ダクトレールによるスポットライトを用い、展示物に合わせた照明計画とした。
展示室B	映像・音響に配慮するため、壁面は、防音性を考慮し、二重壁・二重窓の計画とした。開口部は、映像作品の展示に対応できるように、暗幕カーテンとした。

(5) 吹き抜け及びその周囲の空間に置いて、多くの自然光を取り入れるために、平面・断面計画や開口部について工夫したこと

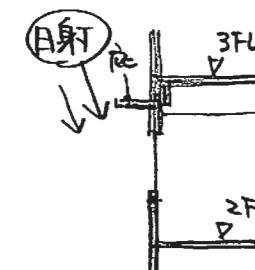
吹き抜け及びその周囲の空間	最下階の1階や、建物中央部の採光不足なりやすさを考慮し、吹き抜けは、建物の中央部に配置する計画とした。また、吹き抜け上部にトップライトを設け、各階の共用部にも多くの自然光を取り入れられるよう計画した。
---------------	--

(5) 公園への眺望(西面及び南面)や自然採光を確保しつつ、冷暖房時の日射負荷抑制を図るために、窓面の配置と大きさ及び日射遮蔽手法等について工夫したこと(Low-Eガラスによる工夫を除く。)

【補足図記入欄(必ず記入する)】



(西面)



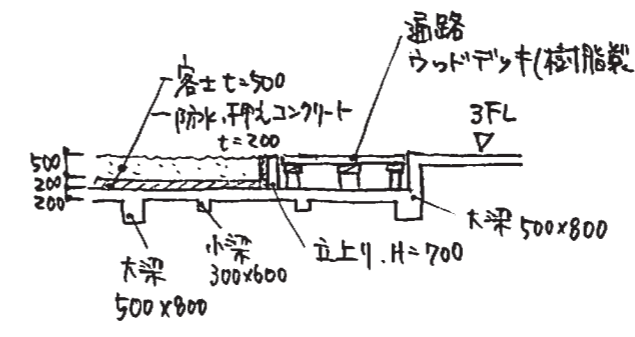
(南面)

西面: 自然採光を確保しながら、西面の冷暖房時の日射負荷を抑制することを考慮し、開口部に垂直ルバーを設け日射を遮るよう計画した。

南面: 公園の眺望に配慮した高さや、南面に面する開口部は、夏期の日射抑制を考慮し、上部に庇を設け、冷房時の日射負荷抑制を図る計画とした。

(7) 屋上庭園(出口・通路及び客土範囲)における断面の構造計画(梁断面、スラブ位置、厚さを設定した考え方、バリアフリーの考え方及び防水の考え方)について考慮したこと

【補足図記入欄(必ず記入する)】



梁断面・スラブ位置・厚さ: 客土深さ500mmを考慮し、屋上庭園スラブレベルを3FL-700とする計画とした。

また、客土の荷重を考慮し、スラブに小梁を2ヶ所計画した。

バリアフリー: 3Fの床レベルと同じとするため、屋上庭園の通路部分は、ウッドデッキ(樹脂製)による二重床とし、3FLの高さを嵩上げする計画とした。

防水: 客土範囲の防水を考慮し、アスファルト防水とする計画とした。また、客土部の耐根対策として防水層の上に押入コンクリートおし保護する計画とした。

(8) 建築物の構造種別、架構形式、スパン割りについて考慮したこと及び主要な部材の断面寸法

構造種別	構造種別は、建物の規模と経済性を考慮し、金鉄筋コンクリート造とした。				
架構形式	架構形式は、空間の自由度を考慮し、柔軟性に優れたラーメン構造とした。				
スパン割り	スパン割は、経済的なグリッド構成にするよう6x6m、6x7mで計画した。				
主要な部材の断面寸法(mm)	大梁:	500 x 800	柱:	800 x 800	
	小梁:	300 x 600	壁:	150	床:

(9) 多目的展示室の構造計画(柱、梁、床、天井、スパン等)について特に考慮したこと及び部材の断面寸法

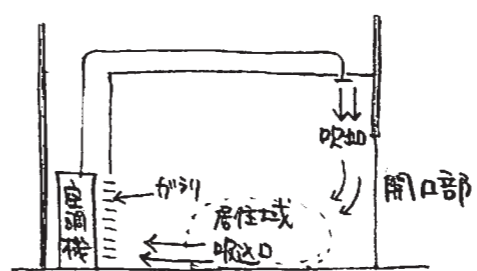
多目的展示室を無柱空間とするために、東西方向の大梁を12mスパンとし、構造の一体性や剛性を確保できるように、プレストレストコンクリート梁(PC梁)を採用する計画とした。PC梁の断面寸法は、スパン長さに応じた剛性を確保し、経済性にも配慮して断面を小さくするために、500x800とした。

部材の断面寸法(mm)	大梁:	500 x 800	柱:	800 x 800	
	小梁:	300 x 600	壁:	150	床:

(10) 多目的展示室の空調用吹き出し口の設置位置(床・壁・天井・幅木)を一つ以上を選択し、その位置とした理由及び配慮したこと

設置位置【床・壁・(天井)・幅木】(一つ以上○印で囲むこと)

【補足図記入欄(必ず記入する)】



設置位置とした理由及び配慮したこと:

多目的展示室は、天井高が高い大空間のため、室内の温度差が大きくなり、また、開口部廻りでは、冬期に冷たいコールドドラフトが発生しやすい。そのため吹き出し口は、101x47mmの天井面に多く設け、吸込口は、床面付近とし、居住域を快適な環境にするよう計画した。